

Ⅱ 令和3年度の研究内容について

調査研究部副部長 石井 正広

1 研究主題及び副主題について

グローバル化や技術革新により急激に変化し予測困難な時代だからこそ、よりよい社会の在り方について考え続け、様々な立場の人々と協働し、その実現に向けて主体的に参画しようとする「社会とつながり未来を創る子供」を育てたい。そのためには、「社会的事象の見方・考え方を働かせながら、主体的に問いを追究する学習を通して」、社会生活の理解を深め、社会的事象の特色や相互の関連、意味を対話的に考えたり多角的に考えたりし、社会の一員として自分の関わり方を選択・判断したり社会の発展を考えたりする力を育成したい。

(1) 研究主題「社会とつながり未来を創る子供の育成」について

「社会とつながり」とは、自分や社会生活とのつながりから、社会的事象に関心をもって調べたり、人々の営みに共感したりして、社会的事象の特色や相互の関連、意味を理解することである。その上で社会の発展を願い、現実社会に見られる課題の解決を考えるなど、よりよい社会の在り方を考えていこうとすることである。

「未来を創る」とは、現在、明日から未来に向けての地域、日本、世界における人々と共に生きる社会を構想し、社会の一員としての生き方を考えていくことである。

「社会とつながり未来を創る子供」を育成するためには、学習内容を子供の生活と密着させたり、社会に見られる課題を把握し、未来の社会に目を向けて関わり方を選択・判断したりする指導の工夫が必要である。そうした学習を通して現実社会とつながり、社会への希望や社会の一員としての自覚をもつ子供が育つと考える。

(2) 副主題「社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して」について

「社会的事象の見方・考え方を働かせ」とは、「位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係」に着目して社会的事象を捉え、「比較・分類、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり」して、社会的事象について調べ、考え、表現することである。子供が「社会的事象の見方・考え方」を働かせて学習することで、社会的事象の様子や仕組みを確かに捉え、特色や相互の関連、意味をより深く理解していくことができる。

「主体的に問いを追究する」とは、社会的事象に関心をもち、学習問題の追究・解決に向けて見通しをもったり、学習問題や学習計画、学習内容や学習方法を振り返ったりして、自ら学習を進めていこうとすることである。主体的な追究には自ら「問い」をもち続けていくことが大切である。具体的な事実を問う「問い」から、社会的事象の特色や意味を問う「問い」、社会の課題やその解決方法を問う「問い」、自分の関わり方考える「問い」へと理解や考えを深めていく学習を展開する必要がある。

社会を形成している人々の具体的な働きから対話的に学んだり友達と対話的に学び合ったり、多角的に考えたりする学習、学んだことを生かして自分と社会とのつながりを問い直したりする学習を通して、自ら学ぶ意味を自覚し、社会参画への意欲や思いを高め、社会とつながり関わっていこうとする子供が育つと考える。

2 研究の内容(手立て)について

研究主題及び研究副主題の実現に向けて、次の5点から教材の開発や分析をするとともに、3つの手立てに基づいた授業づくりを行ってきた。実際には、学年部会ごとに年間2本の検証授業を通して研究を進めた。

- ・東京のよさを再認識し都民の誇りがもてる教材
- ・時間的、空間的、相互関係的な視点に着目できる教材
- ・人の営みに共感できる教材
- ・問題意識や追究意欲を高める教材
- ・社会とのつながりを意識できる教材

(1) 研究内容1「主体的に追究する問いの工夫」

- 問題意識が高まり問いが生まれる社会的事象との出会いの工夫
- 学習問題の設定と予想や学習計画の立案による見通しをもつ工夫
- 子供の思考の過程に即した問いの構成の工夫

(2) 研究内容2「社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫」

- 視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫
- 比較・分類・関連付け・総合して考察する学習活動の工夫
- これまでに養われた視点や方法を転移・応用させ社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習活動の工夫

(3) 研究内容3「子供の学びを確かにする評価の工夫」

- 3観点による評価計画の作成
- 指導と評価の一体化を図る(教師が指導に生かす)ための評価の工夫
- 子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価活動の工夫

3 研究構想図

研究主題

社会とつながり未来を創る子供の育成 ～社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に問いを追究する学習を通して～

目指す子供像

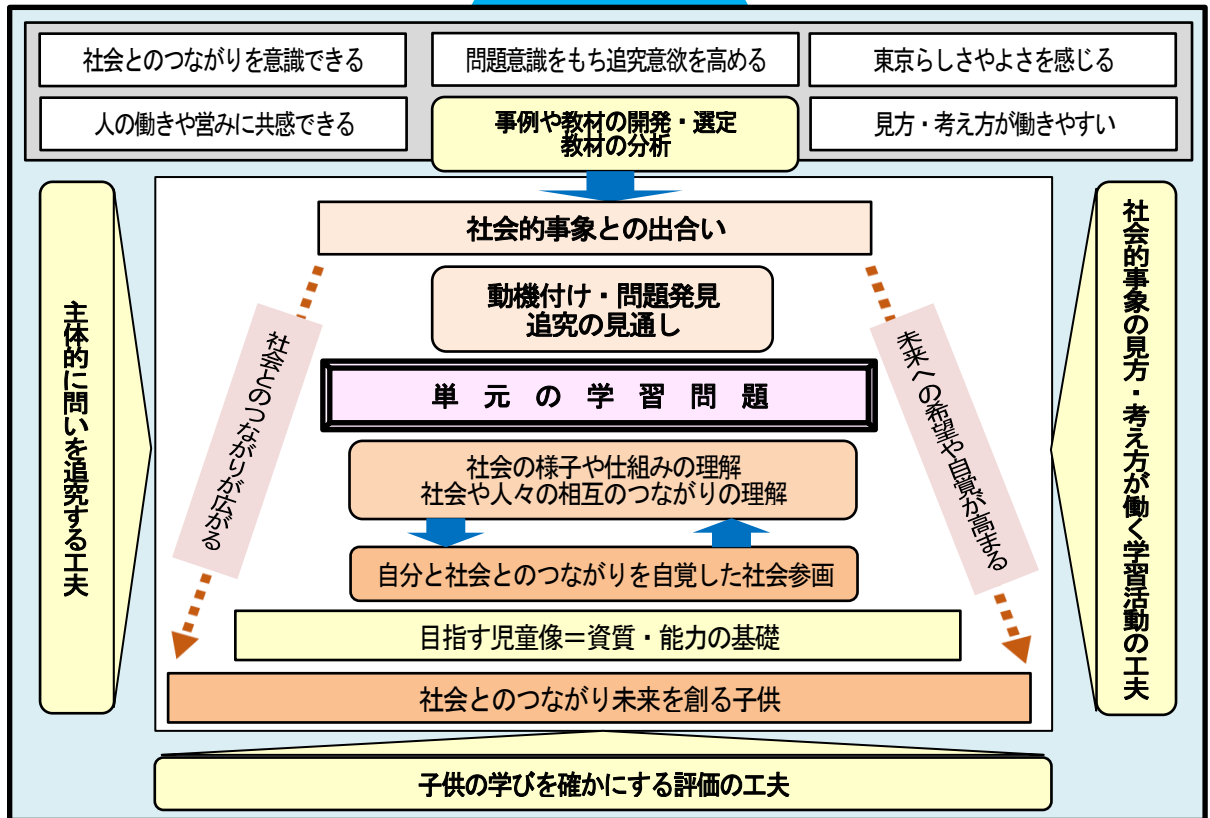
目指す子供像	・社会をよく見て、様子や仕組みが分かる子供 ・くらべたりつなげたりして特色や意味を考える子供 ・社会的事象への問いをもち、社会の出来事を自分とつなげ、よりよい社会づくりに関わろうとする子供			
	3年生	4年生	5年生	6年生
知識や技能	自分たちの暮らす地域への理解をもとに、地域社会のこれからを考えようとする子供の育成	自分たちの暮らす東京都への理解を基に、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え、東京都のこれからを考えようとする子供の育成	我が国の国土や産業の確かな理解を基に、社会的事象の意味や特色について多角的に考え、我が国の産業や国土の未来を考えようとする子供の育成	我が国の政治、歴史、国際社会における役割の確かな理解を基に、社会的事象の意味や特色について多角的に考え、我が国の将来を考えようとする子供の育成
思考力・判断力・表現力				
学びに向かう力・人間性				

仮説

社会的事象の見方・考え方と獲得させたい知識、そのための問いや資料との関係を吟味して授業を構想することで、教師は効果的な教材開発が可能となる。また、子供が社会的事象の見方・考え方を働かす学習活動を工夫し、学びを確かに見取る評価方法を工夫することにより、子供が主体的に問いを追究する学習が実現し、社会とつながり未来を創る子供が育つだろう。

見方・考え方
社会とのつながり
問い
主体的な学び（見通しと振り返り）
指導と評価の一体化

目指す授業づくりのイメージ



研究の重点内容

【研究の内容①】

- 主体的に問いを追究する工夫
- 問題意識が高まり問いが生まれる社会的な事象との出会いの工夫
 - 学習問題の設定と予想や学習計画の立案による見通しをもつ工夫
 - 子供の思考の過程に即した問いの構成の工夫

【研究の内容②】

- 見方・考え方が働く学習活動の工夫
- 視点に着目して問いについて調べる学習活動の工夫
 - 比較・分類・関連付け・総合して考察する学習活動の工夫
 - これまでに養われた視点や方法を転移・応用させ社会に見られる課題の解決に向けて構想する学習活動の工夫

【研究の内容③】

- 子供の学びを確かにする評価の工夫
- 3観点による評価計画の作成
 - 指導と評価の一体化を図る（教師が指導に生かす）ための評価の工夫
 - 子供が自分の学びを振り返り、次の学びに生かす評価活動の工夫